

事業名	日本語教育事業
分類	自立支援(青少年育成)
支援対象	ハート・オブ・ゴールドむつみ日本語教室

活動理由

カンボジアの8割を占める農民は非常に貧しく、そのため、子どもを手放さざるを得ない家庭が多くあった。子ども達が成長しても就職は困難を極めており、もし、日本語が話せたならば、ホテル、レストラン、ガイドと仕事が見つかる可能性は高く、自立のために現地の多くの人々から日本語教育支援の強い要請を受けた。HGは日本語教育のための派遣教員として、2000年9月から松尾睦先生をシムリアップに派遣した。現地調査の結果、シムリアップの最も貧しい地区の一つであるチェイ小学校内において、2001年6月より無料の日本語教育を始めた。2002年には、チェイ小学校校内に独立した日本語教室を新築して、現在では4クラスが毎日1時間ずつ日本語を学べるようになった。日本語教育には高等教育という理由で、助成金がほとんどなく、下記の団体の寄付で活動できている。

活動概要

1. 人数:「つばき組」(12名)「ばら組」(10名)「すみれ組」(22名)「チューリップ」(35名) 計79名
2. 時間:月曜日～金曜日 午前7時～10時、午後12時～3時
3. 内容:つばき組(日本語検定2級、3級目標)



日本の学校との交流(13年目)

日本の学校からの支援物資(手作り日本語教材、手作り遊び、手作り絵本、手作りかばん、文房具等)を送ってもらい、日本語教室内は日本からの心のこもった教材や掲示物で飾られており、その教材を使って授業が進められている。2008年より岡山学芸館高等学校の高校生が、2012年から岡山学芸館清秀中学校の中学生が研修旅行として、シムリアップで数日滞在し、日本語教室で子ども達と大変温かい雰囲気



で有意義な交流が出来ている。

教室訪問・物資支援

6月19日:高野山総本山金剛峰寺谷口様 森崎先生に寄る臨床動作法と呼吸法の実施指導と法話。

12月11日:岡山学芸館高等学校A班33名先生4名、12月13日:B班34名先生3名、1月18日学芸館清秀中学校28名先生3名が訪問。授業参観、交流、全員によるダンスで盛り上がる。その後4つのグループに分かれ、剣玉、折り紙、シャボン玉、サッカー、パルンアート、ビーズ作り、習字、カルタ、福笑い、



動物の鳴き声、ミサンガ作り等に挑戦しパルンアート、ビーズ作り、習字、カルタ、福笑い、動物の鳴き声、ミサンガ作り等に挑戦し有意義な交流となった。2月10日:姫路東ロータリークラブ6名チェイ小学校教科書支援で普通教室参観と日本語教室訪問。卒業生のカン・ナムアオイはバイオンセンターで学芸員としてバイオンの歴史を系統的に説明し案内した。流暢な日本語で説明が出来大変喜ばれた。2月12日:岡山旭ライオンズクラブ10名が訪問。ソプラノ歌手の「花は咲く」に大感動した。3月3日:富山YMCA(大学生5名、先生2名)が訪問、交流。なお、1月19日から2月8日まで日本語教室の13年振りの改修工事が行われ、快適な環境となった。訪問団体、

学校、企業、個人支援者の皆様より、靴、制服、文具、日用品などの支援を多数受けた。

卒業生の動向

- ① テン・ワンニダーは大学進学しながら午後臨時スタッフとして日本語指導している。
- ② チュート・スライノッチは9月23日からNCCGのスタッフとして勤務している。
- ③ 第1期生のチュン・スライミーは7月に日本語能力試験N2に合格した。
9月から3ヶ月のガイド養成講座を受講し、12月4日にガイド試験に合格した。
- ④ 初めての男子留学生ラエム・セラーは、ホームステイをして留学生活を送った。



次期実施計画 岡山学芸館高校への留学は、2014年度はルット・スナラー(8期生)が選ばれた。彼のハート・ペアレント(留学里親)の支援を募集中。昨年に引き続き、同じホストファミリーで留学生活を送ることになった。

支援・協力団体 コニシ(株)、大光電機(株)、留学里親、岡山学芸館高校・清秀中学校、岡山学芸館外国語学校、那須食品(株)、順天中・高等学校、倉敷平成ライオンズクラブ、岡山外語学院、姫路東ロータリークラブ、個人支援者、岡山市立福島小学校、第三藤田小学校、政田小学校、平福小学校、野谷小学校、

